

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7年 6月 12日

奈良県知事 殿

提出者

住 所 奈良県大和郡山市横田町81番1

氏 名 株式会社アイ工務店 奈良支社

支社長 矢野 広明

電話番号 0743-85-5853

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社アイ工務店 奈良支社
事業場の所在地	奈良県大和郡山市横田町81番1
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	建設業／総合工事業／木造建築工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 38.6億円
③ 従業員数	45人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	新築廃棄物→各現場で発生した廃棄物は委託収集運搬にて回収し、委託集積場に集め、処理委託業者にて処理。

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

本社現場推進部
 ↓
 奈良建設部長（廃棄物処理総括責任者）
 ↓
 奈良工事管理部（産業廃棄物管理担当）
 ↓
 工事現場管理責任者（産業廃棄物管理責任者、特別管理産業廃棄物管理責任者）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	工事担当が各現場に指示・確認。 処分場にて邸別に実数量を計測し週1回の報告を行う。		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	施工方法の具体的改善により廃棄物を各工程より削減する。 現場巡回にて余分なものを廃棄していないか現状を把握し 適正数量での納材を指示する。 性の向上と廃棄物量が平行しないよう細分化を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	がれき類（コンクリート塊）、木くず、段ボール、プラスチックボトル、混合廃棄物に分別指導を行う。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	混合廃棄物の分類精度向上図る。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類			
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量		t	t
(これまでに実施した取組)			
【目標】			
産業廃棄物の種類			
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量		t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類			
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量		t	t
自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量		t	t
(これまでに実施した取組)			
【目標】			
産業廃棄物の種類			
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量		t	t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量		t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類			
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		t	t
(これまでに実施した取組)			
【目標】			
産業廃棄物の種類			
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	t
(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（令和 年度）実績】			
産業廃棄物の種類			
全処理委託量		t	t
優良認定処理業者への処理委託量		t	t
再生利用業者への処理委託量		t	t
認定熱回収業者への処理委託量		t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t	t
(これまでに実施した取組)			

②計画		【目標】		
		産業廃棄物の種類		
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
		再生利用業者への 処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)				
※事務処理欄				

令和6 年度 産業廃棄物処理計画入力表

記入願います

(株)アイ工務店 奈良支社

記入不要です

項目	廃棄物の種類	ア	イ	ウ	エ	オ	力	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	合計量 (t)
		燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック	ゴムくず	金属くず	カラス・コンクリート・陶磁器くず	石膏ボード	がれき類	ダンボール	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残さ	家畜のふん尿	家畜の死体	動物系固形不要物	13号廃棄物	建設混合廃棄物	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	排出量 ①	前年度実績					49.525			301.540	92.100	32.812			94.405							521.534	1091.916
		今年度目標					71.811			437.233	133.545	47.577			136.890							756.224	1583.280
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 ②	前年度実績																				0.00	0.00
		今年度目標																				0.00	0.00
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 ③	前年度実績																				0.00	0.00
		今年度目標																				0.00	0.00
自ら行う産業廃棄物の埋立処理に関する事項	自ら埋立処理分 又は海洋投棄量 ④	前年度実績																				0.00	0.00
		今年度目標																				0.00	0.00
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	全処理委託量 ⑩	前年度実績				49.525				301.540	92.100	32.812			94.405							521.534	1091.916
		今年度目標				71.811				437.233	133.545	47.577			136.890							756.224	1583.280
⑪のうち優良認定処理業者への処理量	前年度実績									2.500	3.840	8.840			42.980							9.360	67.520
		今年度目標								3.625	5.568	12.818			62.321							13.572	97.904
⑫のうち再生熱回収業者への処理量	前年度実績																					0.00	0.00
		今年度目標																				0.00	0.00
⑬のうち外業者への熱回収を行なう業者の処理委託量 ⑭	前年度実績																					0.00	0.00
		今年度目標																				0.00	0.00